

日本現象学会 2020 年度研究大会（第 42 回）

男女共同参画・若手研究者支援 WG 主催ワークショップ

『身体を引き受ける』を引き受ける——トランスジェンダー現象学の展開

現象学のおおきな魅力のひとつは、個別的な経験や事象の分析を通じて、われわれと世界との関係、そしてわれわれ自身のあり方を哲学的に捉えなおすきっかけを与えることにあるのではないのでしょうか。

ボーヴォワールによって切り拓かれ、ヤングらが発展させてきた女性としての経験の分析、ファノンらによる黒人としての経験の分析は、マイノリティの立場から状況をありありと記述することで、おおくの哲学者たちが暗黙のうちに前提してきた「標準的な」人間像・世界像を見直させるだけでなく、同時に、抑圧的な社会構造への批判の契機を提供してきました。こうした運動は、現在、フェミニスト現象学という名のもとで、マイノリティ研究のさまざまな場面に波及しています。

本ワークショップでは、なかでも昨年邦訳が刊行されたゲイル・サラモンによる著作『身体を引き受ける』を出発点として、トランスジェンダー現象学からみた身体の問題に踏み込みます。

同書は、メルロ＝ポンティに由来する身体イメージの理論と社会構築主義の理論を援用しつつ、トランスジェンダーの身体と主体の固有のあり方を提示した画期的な著作です。議論はトランスジェンダーの固有性の主張にとどまりません。サラモンの試みは、現象学的な身体論の基盤にあるような性の二元論や心身の関係にかんする諸前提を再考させるものでもあります。

本ワークショップでは、この著作をめぐる2名の登壇者の方々からトランスジェンダーと身体の問題について論じていただいた後、コメンテーターの方から発表にかんする質問・コメントをいただき、会場全体で議論します。

会員のみなさまの積極的なご参加をお待ちしております。

オーガナイザー：赤阪辰太郎（大阪大学）

提題者：古怒田望人（大阪大学）

提題者：佐野泰之（立命館大学）

コメンテーター：岩川ありさ（法政大学）